

学校施設耐震診断状況一覧表

※太枠内が今回の補強工事後の判定値です。

No.	学校名	構造・規模等			建築年	耐震基準 ※2		診断年度	診断結果 (Is値 ※3)	判定		
		棟区分 ※1	構造	面積		階数	新			旧	耐震性 あり	耐震補 強必要
1	中富良野小学校	校舎1	鉄筋コンクリート	972	2	昭和 53年		○	H20	1.30~2.39	○	
		校舎2	鉄筋コンクリート	1,323	2	昭和 53年		○	H20	0.43~1.52		○
		校舎3	鉄筋コンクリート	1,302	2	昭和 52年		○	H20	0.76~2.42	○	
		体育館	鉄筋コンクリート	914	2	昭和 54年		○	H20	0.75~8.22	○	
2	旭中小学校	校舎	鉄筋コンクリート	1,589	2	昭和 59年	○		—	—	○	
		体育館	鉄筋コンクリート	738	2	平成 10年	○		—	—	○	
3	宇文小学校	校舎	鉄筋コンクリート	1,459	2	昭和 60年	○		—	—	○	
		体育館	鉄筋コンクリート	743	2	平成 13年	○		—	—	○	
4	西中小学校	校舎1	鉄筋コンクリート	1,380	2	昭和 57年	○		—	—	○	
		校舎2	鉄筋コンクリート	90	2	昭和 57年	○		—	—	○	
		体育館	鉄筋コンクリート	620	2	平成 12年	○		—	—	○	
5	南中小学校	校舎	鉄筋コンクリート	875	2	昭和 61年	○		—	—	○	
		体育館	鉄筋コンクリート	599	2	平成 11年	○		—	—	○	
6	本幸小学校	校舎	鉄筋コンクリート	819	1	平成 4年	○		—	—	○	
7	中富良野中学校	校舎1	鉄筋コンクリート	1,564	3	昭和 55年		○	H21	0.79~2.60	○	
		校舎2	鉄筋コンクリート	1,411	3	昭和 55年		○	H21	0.74~1.48	○	
		校舎3	鉄筋コンクリート	1,812	3	昭和 55年		○	H21	0.84~2.18	○	
		体育館	鉄筋コンクリート	1,246	2	昭和 62年	○		—	—	○	

※1 増築を行った場合など、建物がエキスパンション(既存建物と増築部分との間に隙間を作り、構造を別々にすることで地震の震動が伝わらないようにする接続材)で接続されているものは、別棟として数えています。

※2 昭和57年以降に建築された校舎等で、建築基準法上の新耐震基準に適合しているものは、今回の耐震診断の対象とはなりません(耐震性あり)。

※3 「Is値」とは、「構造耐震指標」のことで、建物の耐震性能を表す指標です。

◆0.3未満～大規模な地震に対し、倒壊または崩壊の危険性が高い。

◆0.3以上0.6未満～大規模な地震に対し、倒壊または崩壊の危険性がある。

◆0.6以上～大規模な地震に対し、倒壊または崩壊の危険性は低い(耐震補強の必要なし)。

ただし、学校施設については、施設の特異性から、より高い安全性が求められており、Is値0.6以上であっても、0.7未満の建物は耐震補強が必要とされています。